

令和8（2026）年度博士前期課程（留学生選抜）問題 目次

専門試験			ページ
人文学専攻	哲学コース	哲学哲学史	
		科学技術社会論	
		臨床哲学	
		中国哲学	
		インド学・仏教学	
	グローバルヒストリー・ 地理学コース	東洋史学	
		西洋史学	
		人文地理学	
	文学コース	中国文学	1 - 2
		英米文学	
		ドイツ文学	
		フランス文学	
		テキスト環境論	3 - 6
比較・対照言語学コース	比較・対照言語学	7 - 9	
日本学専攻	基盤日本学コース	現代日本学	
		日本史学	
		考古学	
		日本文学・日本語史学	10 - 16
		基盤日本語学	17 - 20
芸術学専攻	アート・メディア論コース	アート・メディア論	
	美学・文芸学コース	美学	
		文芸学	
	音楽学・演劇学コース	音楽学	21 - 22
		演劇学	
	日本東洋美術史・西洋美術史コース	日本東洋美術史	
		西洋美術史	

令和 8 (2026) 年度
大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻
(博士前期課程/外国人留学生選抜) 入学者選抜試験問題
人文学専攻 (中国文学受験分野) 筆記試験
[問題用紙は 2 枚です。]

I 次に挙げる二首の詞を読んで、後の問いに答えよ。解答はすべて日本語を用いること。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。
唐圭璋編、『全宋词』、中華書局、1965年、931・1880 - 1881頁。一部改変。

- 問一 二首の押韻について、韻字をすべて挙げながら説明せよ。
問二 二首を日本語訳せよ。
問三 二首はともに愁いについて表現しているが、その表現手法や表現内容はどのように異なるか。二首の全体を踏まえて分析せよ。

II 次に挙げる文章を読んで、後の問いに答えよ。解答はすべて日本語を用いること。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。
吉川幸次郎、『宋詩概説』、岩波書店、1962年、34—35頁。

- 問一 下線部を日本語訳せよ。
- 問二 下線部において「習慣となった」と述べているが、何が「習慣」となったのか。また、作者がそれを「惰性的な」「習慣」と見なしたのはなぜか。その論理について分析せよ。
- 問三 上の文章は、どのような視点から唐詩と宋詩の相違を論じているのか。中国文学史の全体を視野に入れながら、考えるところを自由に述べよ。

令和8(2026)年度
大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻
(博士前期課程/外国人留学生選抜) 入学者選抜試験問題
人文学専攻 (テキスト環境論受験分野) 筆記試験
[問題用紙は 4 枚です。]
(1枚目/ 4 枚中)

I ハンガリーの文芸批評家 György Lukács について書かれた次の英文を読み、後の二つの問いに答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。

出典：

Robert Dale Parker. *How to Interpret Literature: Critical Theory for Literary and Cultural Studies*.
3rd ed., Oxford UP, 2015, p. 226, ll. 11–33.

(イ) 括弧「 」内を日本語に訳しなさい。

(ロ) Lukács の “modernist fiction” に対する評価はどのようなものであったと本文では述べられているか。日本語でわかりやすく説明しなさい。

Ⅱ 下の文章を読んで、翻訳された詩の工夫や改変について、原文の詩と比較しながら分析して論じなさい。出典は、矢野峰人訳『シモンズ選集』(アルス, 1921), pp.5-7 および Arthur Symons, *Poems by Arthur Symons*, Volume I (London: William Heinemann, 1907), p.3 です。

阿片喫む人

われ今ふかき淵に落ち、えもいひがたき夢ごこ

ちおぼれてゆけば、

えならぬ香かにもたとふべきやさしき樂がくは、

音ねにもいづべき美し香うまに色も黄金こがねに照り映ゆる

妙たへの光ともろともに、

この現身うつしみをとこしへに死出ころもの衣にまとふかな。

「時」既にわれにあらなく、身はここに停止とどまるご

とく、去るごとし。

身は果しなき萬よろづよ世よるの夜につつまれ、

われは飲ほみ乾ちよろづすよろこびの千よ萬の世を。

われは未来おもひでを記憶おもひでのなかににぎれり。

またわれここにわが借れる屋根も部屋有てり。

藁しとねの褥も椅子なりしこの器具もまた、

破やれはてし幄あげばりめきし衰残おとろへの肉體むくろもここに、

また鼠くら喰ひのこせし麵麩パンの殻皮かわ、

阿片喫む煙管パイプもここに。憤怒ふんぬ、悔恨、絶望も、

眠は？眠はすべてよりそはず。

ああそはいかに忘れ得ぬいかなる罪か

質草たましひのこの靈魂うつも、恍けたるこのわが胸も。

(表記を一部変えたところがあります)

質草：質屋で金銭を借りる際に担保として預ける品物のこと

The Opium-Smoker.

I am engulfed, and drown deliciously.
Soft music like a perfume, and sweet light
Golden with audible odours exquisite,
Swathe me with cerements for eternity.
Time is no more. I pause and yet I flee.
A million ages wrap me round with night.
I drain a million ages of delight.
I hold the future in my memory.

Also I have this garret which I rent,
This bed of straw, and this that was a chair,
This worn-out body like a tattered tent,
This crust, of which the rats have eaten part,
This pipe of opium ; rage, remorse, despair ;
This soul at pawn and this delirious heart.

Engulf: to be completely submerged or overwhelmed.

Audible odours: synaesthetic "sounds" of scent; the speaker hears perfume as music, blending hearing and smell in a drug-induced Symbolist ecstasy that dissolves normal sensory boundaries.

Swathe: to wrap or bind; ceremonial covering suggesting both comfort and entombment.

Cerement: a burial shroud; the "cerements for eternity" invoke death, not life.

Drain: to drink up or consume completely.

Garret: a cramped attic room; Victorian shorthand for urban poverty and desperation.

Tattered: worn to shreds; the speaker's body and dignity reduced to fragments.

Crust: a scrap of bread.

Pawn: pledged as collateral; the speaker has mortgaged his soul for temporary oblivion.

Delirious: mentally deranged with wild excitement.

Ⅲ 次の文章は、三島由紀夫の戯曲「道成寺」の一部です。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。

出典 三島由紀夫『近代能楽集』（新潮社、一九六八年三月刊行、二〇〇四年五月改版、一九二頁二行目～一九五頁一六行目）

問

- (イ) 傍線部(1)について、「でももう何が起ろうと、決して私の顔を変えることはできません」とはどのようなことか。本文に即して説明しなさい。
- (ロ) 三島由紀夫は、『近代能楽集』の「あとがき」において、本作を「謡曲」を「翻案」する「企て」であると述べている。「翻案」について、あなたの知るところを述べながら、三島由紀夫「道成寺」における「企て」とはいかなるものであったと考えられるか、論じなさい。

(4枚目 / 4枚中)

令和 8(2026)年度

大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻

(博士前期課程/外国人留学生選抜)入学者選抜試験問題

人文学専攻 (比較・対照言語学受験分野) 筆記試験

[問題用紙は 3 枚です。]

(1 枚目/3 枚中)

★一題ごとに別の解答用紙を用い、問題番号を記入すること。

I. つぎの A、B の英文を読んで、それぞれ日本語でその内容を簡潔にまとめなさい。

A.

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

MacDonald, Jonathan E. (2008) *The Syntactic Nature of Inner Aspect: A Minimalist Perspective*.

John Benjamins.p.2, 13 - p.2, 123

(2 枚目/3 枚中)

B.

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Portner, Paul; Heusinger, Klaus; Maienborn, Claudia (eds.) *Semantics: Noun Phrases and Verb Phrases*. Mouton. (Kindle Edition.) に掲載の Carlson, Greg. (2019) “Genericity.” (ただし、出題のため一部改変あり)

II. つぎの項目のうち 5 つを選び、その内容を英語あるいは日本語で簡潔に説明しなさい。どの項目を選んだかわかるように番号を付すこと。

- | | |
|---|--------------------------------|
| (1) entailment | (6) unergative verbs |
| (2) intersective adjectives | (7) cognate object |
| (3) suppletive forms | (8) complementary distribution |
| (4) phonemes | (9) <i>there</i> constructions |
| (5) derivational and inflectional morphemes | (10) causative alternation |

(3 枚目/3 枚中)

III. 次の日本語の文を読んで、英語でその内容を簡潔に表しなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです

久野暲・高見健一（2022）『謎解きの英文法 助動詞』くろしお出版. 6頁19行～7頁16行（ただし、出題のため一部改変あり）

IV. 大学院入学後の研究計画について、英語あるいは日本語で説明しなさい。字数制限はありません。

令和八（二〇二六）年度

大阪大学大学院人文学研究科人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻
(博士前期課程/外国人留学生選抜) 入学者選抜試験問題

日本学専攻 (日本文学・日本語史学受験分野) 筆記試験

問題用紙は七枚です。」

(一枚目/七枚中)

一 次の文章は藤原道綱母の『蜻蛉日記』の康保三年八月の部分です。これを読んで、後の問いに答えなさい。(この問題については解答用紙一枚を用い、縦書きにすること)

*かかる所をも、取り繕ひ関はる人もなければ、いと悪しくのみなりゆく。これをつれなく出で入りするは、ことに心細う思ふらむなど、深う思ひよらぬなめりなど、ちぐさに思ひ乱る。①「ことしげし」といふは、なにか、この荒れたる宿の逢よりもしげげなりと、思ひながむるに、八月ばかりになりけり。

心のどかに暮らす日、はかなきこと言ひ言ひの果てに、我も*人も悪しう言ひなりて、うち怨じて出づるになりぬ。端のかたに歩み出でて、*幼き人を呼び出でて、「我は今来とす」など言ひ置きて、出でにけるすなはち、②這ひ入りて、おどろおどろしう泣く。「こはなぞ、こはなぞ」と言へど、答へもせで、論なう、さやうにぞあらむと推し量らるれど、人の聞かむもうたてもぐるほしければ、問ひさして、*とかうこしらへてあるに、五六日ばかりになりぬるに、音もせず。例ならぬほどになりぬれば、「あなものぐるほし、たはぶれごととこそ我は思ひしか、はかなき仲なれば、かくてやむやうもありなむかし」と思へば、心細うてながむるほどに、出でし日使ひし*汗杯の水は、さながらありけり。上に塵みりてあり。かくまでと、あさまじう、

③絶えぬるか影だにあらば問ふべきを形見の水は水草みにけり

など思ひし日しも、見えたり。例のごとにてやみにけり。④かやうに胸つぶらはしき折のみあるが、世に*心ゆるびなきなむ、わびしかりける。

(『蜻蛉日記』より)

注 かかる所―筆者の家。 人―兼家。 幼き人―道綱。 とかう―あれこれと。

汗杯 (ゆするつき)―頭髪を洗いくしけずる水を入れる器。

心ゆるび―くつろいだ気持ちになること。気が休まること。

問一 傍線部①は、兼家の言葉に対して、筆者がどのように考えているものか。内容を詳しく説明しなさい。

問二 傍線部②について、なぜこのような状況になっているか。詳しく説明しなさい。

問三 傍線部③の和歌について、誰のどのような「影」・「形見」かを明示し、内容を詳しく説明しなさい。

問四 傍線部④に見える筆者の状況・心情は、何に起因するものと考えられるか。自由に論じなさい。

(二枚目／七枚中)

二 次の資料は、芥川龍之介による小説「鼻」(一九二六年発表)の①草稿・②現代の文庫版(新潮文庫二〇〇八年)の冒頭部である。①②を読んで後の問いに答えなさい。(この問いについて解答用紙一枚を用い、縦書きにすること)

①草稿

「所蔵者の権利に配慮し、省略します。」

※ 左記 URL 「鼻」草稿」の四行／六行。

四行目「云へば」に傍線 A、六行目「下つてゐる」に傍線 B を付す。

(山梨県立文学館所蔵「鼻」草稿 <https://digital-archive.pref.yamanashi.jp/database/detail/67>)

②現代の文庫版

「校訂者の権利に配慮し、省略します。」

※ 芥川龍之介『羅生門・鼻』(新潮文庫・平成一七年版)、二〇頁一行／三行。

二〇頁一行目「云えば」に傍線 a、二〇頁三行目「下っている」に傍線 b を付す。

(『羅生門・鼻』新潮文庫による)

問一 傍線部 A と a において、A は「云へば」、a は「云えば」とある。この相違について、日本語の音韻史および表記史の観点から説明しなさい。

問二 傍線部 B と b において、B 「下つてゐる」、b 「下っている」のように用いられている文法形式「〜テイル」の、現代日本語での意味用法を記しなさい。そのうえで、「〜テイル」の歴史的変遷を調査する方法を具体的に説明しなさい。

問三 ①または②について、問一・問二で取り上げた箇所以外から、日本語史の観点であなたが注目する箇所を一箇所抜き出し、理由を示したうえで詳しく説明しなさい。

(三枚目／七枚中)

* 日本文学専攻予定のものは **三(A)** を、日本語史学専攻予定のものは **三(B)** を選択しなさい。

三(A) 次の文章は、井戸川射子「マイホーム」の一部です。この文章を読み、後の問いに答えなさい。(この問題について解答用紙一枚を用い、**横書き**にすること。不足の場合は追加紙を申し出ること)

『著者の著作権に配慮し、省略します。出典は以下の通りです。』

※ 井戸川射子『この世の喜びよ』講談社、二〇二二年一月発行、九九頁一行～一〇四頁一〇行。

一〇三頁四～五行「何でも最初は私としよう、スタグもドトールも私と行こう」と二人の脚を両手でさすりながら彼女は言う」に傍線①、一〇四頁八～九行「私は一人で歩く時に、両腕をどう振っていたんだっけと思った」に傍線②を付す。

(四枚目／七枚中)

【著者の著作権に配慮し、省略します。】

(五枚目／七枚中)

『著者の著作権に配慮し、省略します。』

(井戸川射子 『この世の喜びよ』講談社、二〇二二年十一月発行、九九～一〇四頁。『早稲田文学増刊号 家族』通巻一〇三七号、二〇二二年三月初出。)

(六枚目／七枚中)

- 問一 傍線部①「何でも最初は私としよう、スタバもドトールも私と行こう」と二人の脚を両手でさすりながら彼女は言う」とあるが、それはなぜか。本文全体の内容を踏まえ、論述しなさい。
- 問二 傍線部②「私は一人で歩く時に、両腕をどう振っていたんだっけと思った」とあるが、それはなぜか。本文全体の内容を踏まえ、論述しなさい。
- 問三 この小説の右の場面における物語内容と物語行為(語り)、ストーリーとプロットについて分析し、論述しなさい。
- 問四 この小説をあなたが論じるとしたら、どのように論じるか。小説テキスト内の分析、語りや叙述、引用や翻案などの他作品との相互関係の考察や比較、同時代状況との関係性、あなた自身の問題関心と交錯させての考察など、この小説を論じる場合に、あなたが着想するアイデアや方向性を示し、論述しなさい。

(七枚目／七枚中)

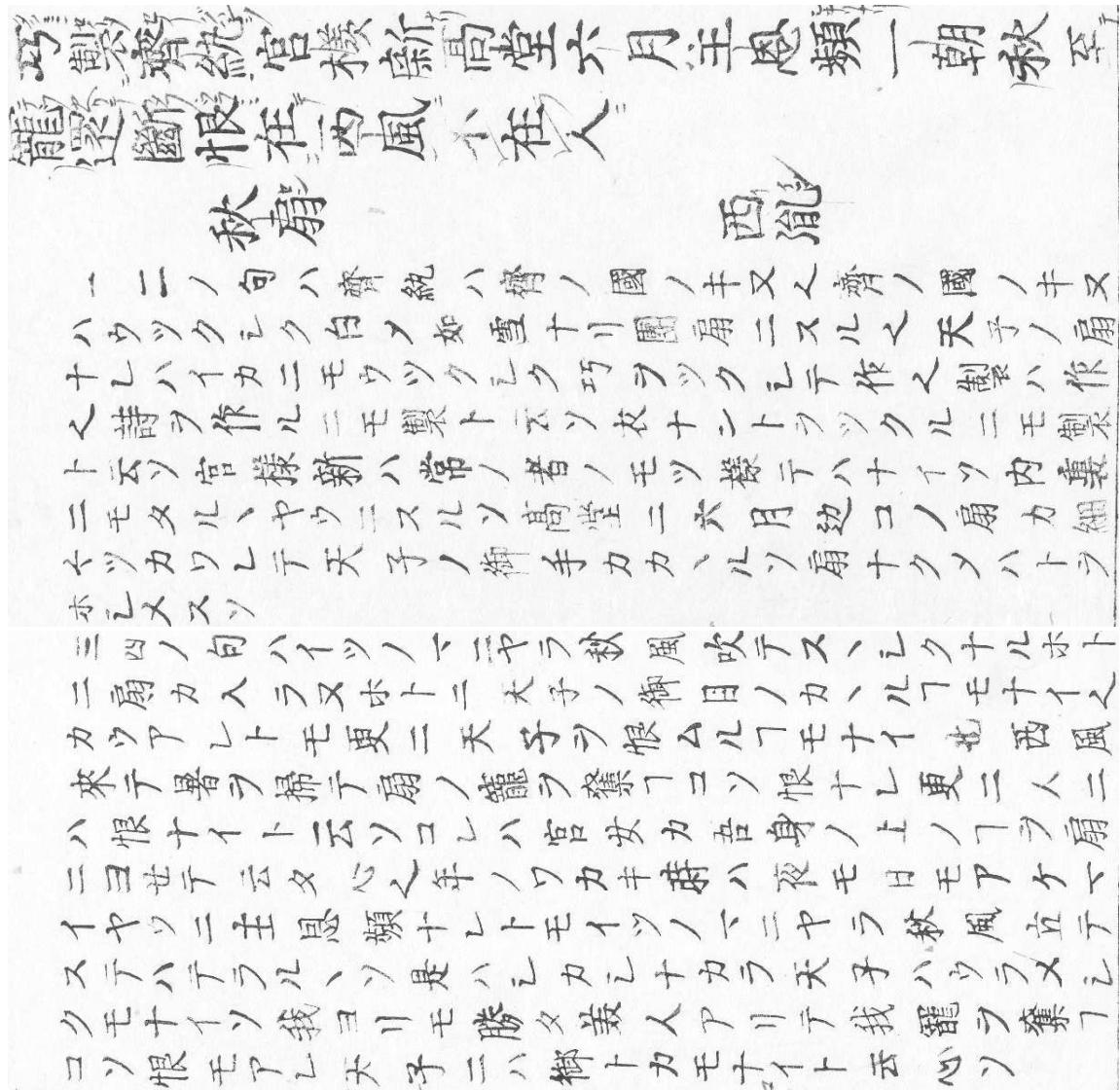
三 (B) 次の問いに答えなさい。(この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにするこ
と)

問一 次の用語・事項について知るところを述べなさい。

- (ア) 言海
- (イ) 富士谷成章
- (ウ) 順行同化・逆行同化

問二 次の資料は『中華若木詩抄』の一部である。これを読み、次の①②に答えなさい。

- ① この資料の日本語史上の位置付けについて、知るところを述べなさい。
- ② この箇所から着想できる日本語史の研究課題を設定し、調査方法とともに説明しなさい。



(東京大学総合図書館所蔵『中華若木詩抄』(A00:5797))

<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/assets/438e681b-6c2e-5b3d-0769-92d2f0f566a4>)

令和8（2026）年度
大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻
（博士前期課程／外国人留学生選抜）入学者選抜試験問題
日本学専攻（基盤日本語学受験分野） 筆記試験

【問題用紙は4枚です。】

（1枚目/4枚中）

[1] 次の文章を読んで、後の問いに日本語で答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

出典：池上嘉彦（2011）「言語研究のおもしろさ」大津由紀雄（編）『ことばワークショップ—言語を再発見する—』開拓社（17頁11行目～22頁10行目）

(2 枚目/4 枚中)

(3 枚目/4 枚中)

(4 枚目/4 枚中)

出典：池上嘉彦（2011）「言語研究のおもしろさ」大津由紀雄（編）『ことばワークショップ—言語を再発見する—』開拓社（17 頁 11 行目～22 頁 10 行目）

- 問 1 下線部①で、(言語を)「〈法則〉と呼べるもので定式化するのは不可能」と述べているのはなぜか、本文に即して答えなさい。
- 問 2 下線部②の「〈可能な人間言語〉」について、筆者はどのように考えているか、本文に即して説明しなさい。
- 問 3 言語の構造の〈必然性〉の有無について、あなた自身はどのように考えるか。本文の内容を踏まえた上で、自由に論じなさい。

[2] 次の 14 項目のなかから 5 項目を選び、それぞれについて 5 行から 10 行程度で説明しなさい。解答言語は日本語とします。

- | | |
|--------------------|------------------|
| (1) ラボフ (W. Labov) | (8) 言語変化の S 字カーブ |
| (2) 短母音化 | (9) 類推 |
| (3) 機能語 | (10) 消滅の危機に瀕した言語 |
| (4) コピュラ | (11) 言語接触における単純化 |
| (5) 右側主要部の原則 | (12) ローマ字表記 |
| (6) 拘束形態素 | (13) 継承語 |
| (7) 転換 | (14) スタイル切換え |

[3] あなたが今後研究しようとするテーマに関連するキーワードを 5 つ挙げ、それぞれについて 5 行から 10 行程度で説明しなさい。解答言語は日本語とします。

令和8（2026）年度

大阪大学大学院人文学研究科 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻

（博士前期課程／外国人留学生選抜）入学者選抜試験問題

芸術学専攻（音楽学受験分野）筆記試験

[問題用紙は2枚です。]

（1枚目/2枚中）

問1 次の文章を読んで、ここで述べられている音楽観について学術的に説明したうえで、あなた自身の考えを述べなさい。[配点 50 点]（出典：沼田里衣「障害のある人とともに「音楽文化」を考えるということ」、音遊びの会『即興がつなぐ未来：音楽と社会の狭間でおととと』2025年、岩波書店、28頁7-16行）

（問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。）

(2枚目/2枚中)

問2 次の英文記事を要約し、あなた自身の研究テーマと関連させながら論じなさい。

[配点 50 点] (出典 : Zachary Woolfe, “John Cage Shock: When Japan Fell for Cage and Vice Versa”, The New York Times (online), Sept. 23, 2023

<https://www.nytimes.com/2023/09/23/arts/music/john-cage-japan-society.html>)

(問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。)